



斗満森林鉄道の廃車両(客車)の移設が完了しました。

かつて斗満森林鉄道(帯広営林局)で使われた客車で、退役後は陸別町の利別川河川敷に児童公園の子供たちの休憩場として使用されていましたが、長く管理されることなく朽ちるにまかされていました。昨年12月8日、関係機関との調整のうえ、北見市留辺蘂町旭中央の赤坂木材(株)の敷地に移設しました。

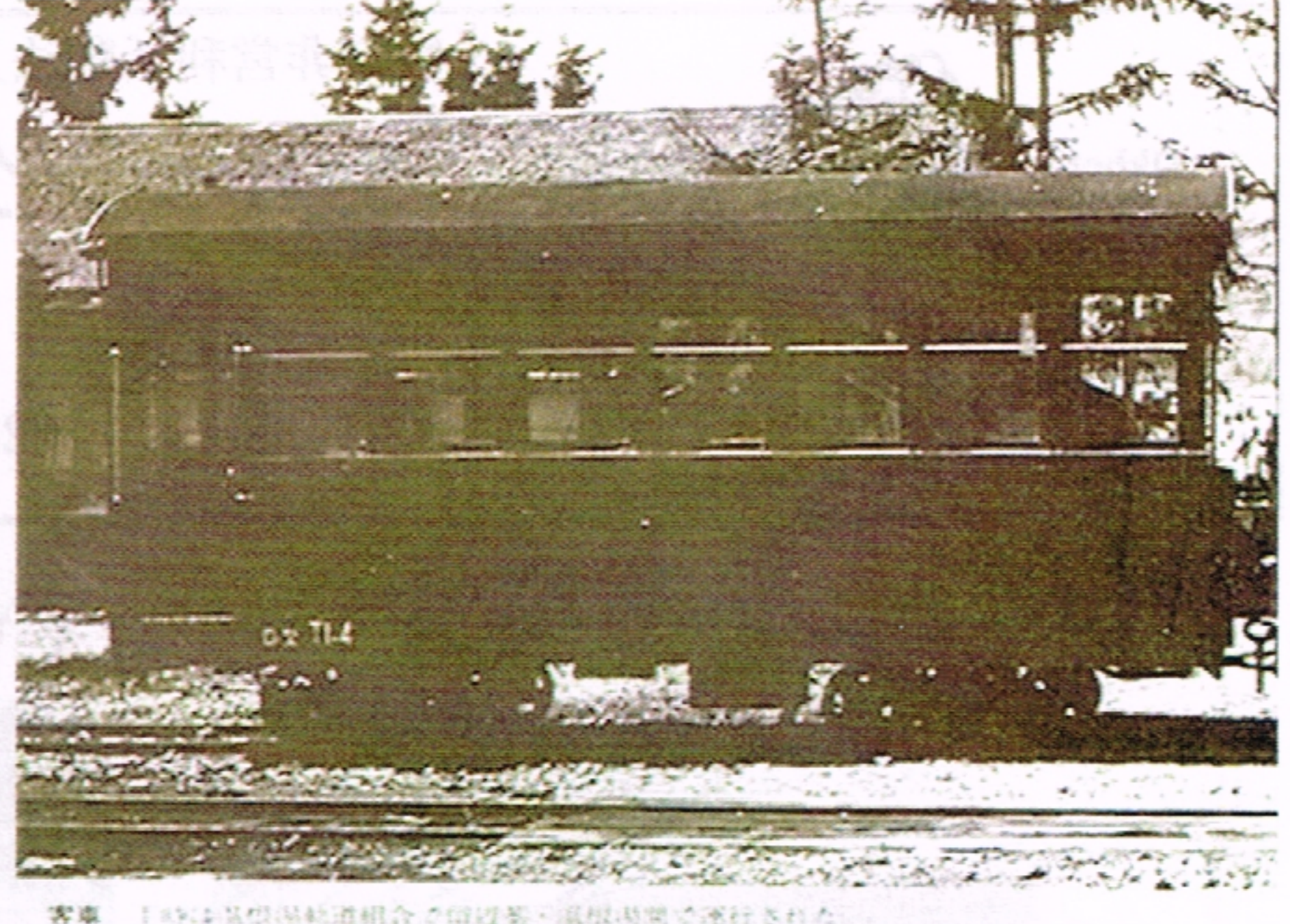


この廃車両を北見市留辺蘂に移設した理由は、この車両がかつて温根湯森林鉄道で使用されていた客車と同型である可能性があるからです。側面の窓数(7枚)、正面の窓数(3枚)、左右側面に設けられたドア位置が同一と思われます。型式としては岩崎レール製B型客車が最も近いと思われますが、4月以降の本格的調査の中でまずは型式を確定し、それに基づき設計図その他の資料を集め、その後復元作業に着手します。

この車両の移設先は、北見市留辺蘂の赤坂木材(株)の敷地です。創業80年以上の歴史を持つ赤坂木材は、林業の町・留辺蘂の歴史を作ってきた企業で、国道39号線の石北峠を超えた坂に「赤坂」という地名が付けられているのは、かつてそこに赤坂木材の作業場があったことによります。



野村鋳業イトムカ鋳山の鉄道車両(写真：北見市・榊原さん)



客車 1949年温根湯温泉軌道組合で旧経路・温根湯間で運行された

温根湯森林鉄道の線路をイトムカ鋳山と温根湯温泉軌道組合の車両が走った！ - 郷土史の「埋れた逸話」に迫れるか -

温根湯森林鉄道は置戸森林鉄道と同時に北海道最初の森林鉄道として敷設されました。その後オホーツクや北海道中に森林鉄道が敷設されますが、留辺蘂は管内森林鉄道の修理工場が置かれるなど森林鉄道の重要な拠点でした。そして何より注目されるのは、温根湯温泉軌道組合やイトムカ水銀鋳山がこの森林鉄道の鉄路を使って車両を走らせ、人や物資を運んでいたということです。今でいえば「上下分離」方式が導入された鉄路です。林業だけでなく鋳業、そして観光業にも活用されていた森林鉄道はまさに留辺蘂の繁栄を丸ごと担ってきた公共交通といえる存在でした。

イトムカ水銀鋳山の発見、国道39号線の開通は森林鉄道が延伸する過程で起きた事柄です。私たちは温根湯森林鉄道の歴史を紐解くことは、留辺蘂の郷土史に埋れた新しい逸話を発見することになるだろうと考えています。林業関係者、イトムカ鋳山関係者、温根湯温泉関係者からの情報提供を求めています。

オホーツク最初の鉄道レールを落札！

1903年 Bolcow, Vaughan 製

1909年 官営八幡製鉄所製 の刻印あり

1911(明治44)年、オホーツク最初の鉄道として網走線陸別-野付牛間の開通から池北線、ふるさと銀河線と引き継がれた30キロレールが、昨年11月北見市によって競売に出されました。競売には我々NPOともう一社が応札。結果我々が落札し、スクラップを免れ歴史的博物として残ることとなりました。レールは全部で約3t、刻印のあるものは展示博物として公開し、刻印のないものは鉄道遺産展示場のフェンスとして活用いたします。



「鉄道王国北海道 - その隆盛と衰頽」

国立映画アーカイブス収蔵を記念し

東京国際フォーラムがオンライン配信

3月22日~4月21日まで

茅沼炭鋳鉄道を北海道鉄道の嚆矢とし、近代化とともに隆盛を迎える過程と産業構造の転換によって衰頽する過程を重厚な映像で追っています。映画の中心的部分に石北線遠軽-北見間を走るSL機関士の一日を据え、最後はふるさと銀河の廃線でとじられます。上映機会の極めて少ない幻の映画がついに陽の目を見ます。配信の詳細は、

東京国際フォーラムホームページのイベントカレンダーを参照ください。

東京国際フォーラム+国立映画アーカイブ
月曜シネサロン&トーク
第4回 2022年3月14日(月)
【開演時間】15:00~(開演14:00)
鉄道王国 北海道
上映名「鉄道王国 北海道 - その隆盛と衰頽 -」(2007年)
監督・解説 小野田 滋
鉄道博物館 学芸員 小野田 滋
主 催 : 東京国際フォーラム・国立映画アーカイブ

会員とボランティアを広く募集しております。皆様からのご紹介をお待ちしています。

正会員	総会における議決権を有する個人
賛助会員	目的に賛同し資金的支援をする個人
ボランティア会員	目的に賛同し労力を提供する個人
団体会員	目的に賛同する団体・法人

年会費	5,000円
年会費	5,000円+寄付金(任意)
年会費	1,000円
年会費	10,000円